


■ ファーストインプレッション＝「僕は嫌だ！」 下り坂66にとっての「不協和音」

∵松岡正剛氏の博識ぶりは凄い！ しかし難解な言葉を駆使して読者を見下している感じがして…。また、章立て(綴テツ立て)も筆者の言うように、「かわる」と「がわる」の間に鎮具や破具を差し込んでいる？ せいか、何の脈絡もなく支離滅裂で、筋道を立てて理解しようとする努力をあざ笑うかのようだし…。

■ 私なりにくみ取ったこと

- ・社会は首尾一貫性(コンシステンシー)を求めたがるが、世の中には「変」や「ちぐはぐ」が混在している。
- ・蕪村の「**風竹ホリきのふの空のありどころ**」という一句に終始するのが筆者の編集人生＝**面影の編集**
  - ⇒ 頭の中のイメージ(擬・つもり)の方がリアルな事象(ほんと)より本質的な価値を持つ？
- ・世の中は予想通りには進まない⇒ 筆者は予想嫌い：本田宗一郎「果報は練って待て」？
- ・世の中には「横取り」や「模倣」「まね」に溢れている：世阿弥「**物学モマネこそ芸道の基本**」
  - ⇒ DNAの複製をRNAが編集、コピーミスが進化を促進するが癌細胞(新生物)も生む(がんもどき?)
- ・歴史は「世」でできている＝為政者が都合の良い“story”を“history”にした
- ・「擬」を内包した「世」は「つもり」でも、科学は「ほんと」だと思われているが、宇宙物理学には「つもり」も「詭え」もあるし、量子力学には観測の問題があり、さらに「複雑系」に現れる「創発」は偶発ではなく偶有性の発現である
  - ⇒ この情動的偶有性を「**コンティンジェンシー**」(別様の可能性)と理解


世を「擬」とみなす

■ コンティンジェンシーからの連想

- ・筆者は未来予想が嫌いとの事だが、私が「コンティンジェンシー」なる言葉と出会ったのはシナリオプランニング\*を習得すべくサンフランシスコに1週間出張していた時。
  - \* 未来のシナリオをいくつか描き、それに対していくつかの対応策(コンティンジェンシープラン)を策定する
- ・編集者は過去～現在のあらゆる情報を扱うのが本業だから「きのふの空のありどころ」が肝となるが、未来即ち「**明日の空のありどころ**」を想定することも必要ではないか？ (未来に想定した姿に近づこうとするのが「志」)

■ 今最もホットな「擬」＝仮想通貨

- ・「仮想通貨」と呼ぶより「サイバーゴールド」、取引所ではなく「賭場」と呼ぶべき？ (一部ネズミ講的な動きも)